

平成30年度 自己評価及び学校関係者評価書

平成31年(2019年)3月1日
市立札幌開成中等教育学校

1 本年度の重点目標

課題探究的な学習に向き合う環境を整える

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	10の学習者像を意識した日常的な取組に努め、MYP認定校とDP候補校の実現を目指し取り組むことができたか。	B	9/11IBOより正式にDP校の認定を受けた。今後も全ての教育活動において生徒自身が、10の学習者像とのつながりを意識できる取組を工夫をする。そのために教職員は、基礎期・充実期・発展期の具体的な指導内容を理解し、生徒に意識づけを行う。	A	A
	SGHとSSHへの取り組みを通して、編入生の教育課程の充実を図ることができたか。	A	SSHの継続(2期目5年間)が決定し、指導体制の充実と研究開発の具体的な内容の推進を行う。SGHは最終年度(継続なし)。次年度へ残す事業を精査する。IBとの整合性を図り相乗効果を生む指導体制を整える。	A	A
	重点目標の内容は、学校や生徒の実態を踏まえた適切な設定となっているか。	A	編入生・新入生の教育課程が共存している現状から年度進行で中等教育学校へ1本化するための具体的な準備を進める。次年度DP・IPの授業が開講するにあたり、教育課程を中心とした研修を行い共通理解を図る。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が学習者像を意識できる取組と効果的な指導法に期待します。 目標を達成することがとても大事なことであり、先生・生徒が一つになって進むことです。 SGHプログラムは、生徒に刺激を与える内容であったので、予算の関係もあるとは思いますが、是非継続できる事業の精査およびIBへの波及を期待します。 				
教育課程・学習指導	【課題探究】「なぜ、どうして」を大切にしたい、生徒自身が学びの主人公となる「課題探究的な学習」を充実することができたか。	A	引き続き、主体性を育む授業や評価のあり方についての研究・研修に努めると共に、新学習指導要領で示された主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善の推進に努める。	A	A
	【専門性】理数英の専門学科の特色を生かした教育課程を編成することができたか。	A	引き続き、SSH、SGHの取組が、最終的には各グループが実施する課題研究を行う際に必要となる知識やスキルを身につけられるような教育課程の編成に努める。	A	A
	【バランス】知徳体のバランスがとれた教育課程となっているか。	A	引き続き、道徳・総合的な学習の時間・特別活動の横断的カリキュラムとして取り組んでいる「こころからだの時間」を効果的に配置するとともに、自らの健康維持や体力向上に生徒が主体的に取り組む工夫に努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> 今後DP開設となり、ますます教育課程が複雑化すると共に教職員の負担増も懸念されます。働き方の見直しも同時に進行され、健康にご留意されるようお願いします。 				
生徒指導・教育相談	【育てたい生徒像】生徒がTPOに応じたふさわしい対応ができるように支援することができたか。	A	スマホについて、編入生は必要な場面(学習・進路に関わる場面)において使用できるようになっている。また、スマホに限らず情報の扱いについての講演等を実施している。本校では、生活の最低限のルールをStudent handbookに記載しているため、今後もTPOに応じた対応やマナーを守ることの大切さについて、1人1人に改めて認識させていきたい。	A	A
	【異年齢交流】学校行事や生徒会活動を通して幅広い異年齢の交流をはかり、生徒の自主性や協調性を育むことができたか。	A	異年齢の交流をできるという本校の特色を生かして、さらに生徒の主体性が育つような仕組みを検討していきたい。より良い学校生活に向けた生徒の自治活動が積極的になるよう支援したい。	A	A
	【教育相談】教育相談の充実を図ることができたか。	A	引き続き、生徒や保護者が相談しやすい体制づくりに努め、教員と生徒が相談できる時間を確保するための方法を検討していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導は一年一年の積み重ねで身につけていくものです。 生徒と先生の積極的な交流が必要だと思います。 今年度初めての大会運動会は6学年が縦に協働する姿を保護者や外部へ披露する機会となり、中高一貫校としての意義を再発見できました。 				
(キャリア探究教育)	【主体的な取組】生徒が自らの生き方を主体的に考え将来を切り拓く力を養うことができるよう、進路探究の充実を図ることができたか。	A	引き続き、主体的な進路選択を目的としたフューチャーセッションやCozmoプロジェクトを中心とした進路探究的な学習に取り組む。	A	A
	【自己理解】体験活動を通して自分を知り、自立を目指すことができるような取組ができたか。	A	自己肯定感や自己効力感の向上につながるよう体験活動の内容と評価のあり方を検討する。	A	A
	【社会とのつながり】変化の激しい変わりゆく社会で自らという役割を果たせるかを生徒自身が意識できるような取組ができたか。	B	ボランティア的な行動を日頃から意識するような雰囲気醸成に努めるとともに、SA(サービス アズ アクション)の実践を通して、意識向上のあり方に対する検証に取り組む。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> 社会とのつながりについては、生徒自身も学校も実績と経験を積み重ね確実に向上します。 入学した時から進路に関する話し合いを持っていただきたい。 これほど外部講師の講話、校外活動、道外・海外への研修が充実している学校は他にはないのではないかと思います。関係者の皆様へ感謝申し上げます。 				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
保健・安全管理	【見守り体制】生徒の安心・安全・快適さを維持する環境を整えることができたか。	A	環境は整備されているが、ラウンジロッカーの使い方にやや課題がある。生徒相互で安心・安全な環境をつくり上げる意識の高揚を図る。また、よりきめ細やかな見守り体制や緊急時の対応に備え、保護者メールの効果的な活用法を検討する。	A	A
学校関係者評価 委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全に学校生活ができるよう努めてください。 ・安心・安全の方策は年齢層で異なり、また、心のケアは個別のものなので、学校の特性上極めて難しい課題だと思います。生徒が自らSOSを発信できる環境づくりをお願いします。 				
組織運営	新入生と編入生が連携し、分掌業務を円滑に推進できたか。	B	現在の分掌構成や業務の進め方についての課題を整理し、より一層機能する組織運営を目指す。	A	A
学校関係者評価 委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・適切です。更なる分析と工夫を目指してください。 ・組織運営が円滑に行われているのが良いと思います。 ・現段階において、教育課程の複雑さや幅広い年齢層を考慮すると、分掌の区分や内容の共有はより煩雑であろうと想像できます。互いが歩み寄り、理解・協力できる体制の維持を期待します。 				
研修	生徒・保護者・教員が課題探究的な学習を行うための環境整備を推進することができたか。	A	引き続き、授業交流の実施をはじめとした課題探究的な学習の実践交流に努めるとともに、より一層主体性を育む授業や評価のあり方についての研究・研修に努める。	A	A
	研修等で得たIBプログラムやSGH、SSH等の情報を保護者・教員間で共有することができたか。	A	引き続き、保護者に対する情報発信に努めるとともに、校内においてはIC(校内研修会)の充実や各教科の指導計画の共有化、SSH・SGHの取組内容の共有化を行う。	A	A
学校関係者評価 委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の実践交流を今まで通りに行ってください。 ・IBプログラム、SSH、SGHの発表の場が多く設定され、生徒を間近で見られ、発表の工夫や努力が感じ取れます。報告会は、時間の設定上全部を見られないのが残念です。 				
保護者、地域情報提供	入学を考えている児童・生徒に対し、必要な情報を適宜発信することができたか。	A	今年度実施した学校説明会(7月・9月)のアンケートでは、ほとんどの参加者から肯定的な回答を得ている。次年度以降も寄せられた要望を整理し学校説明会の開催を継続していく。	A	A
	学校だよりや学年だより、ホームページ、学年懇談会などを通じて、学校の様子がよくわかるように伝わってくる。	B	年間10回の授業公開日、学年・学級懇談会を企画し(現在9回終了)学校の様子を公開している。ただ今回、ホームページの更新に対する意見を多くいただいております。今後学年や各委員会(IBやSSH・SGH)と連携を図り内容を充実させていく。	A	A
学校関係者評価 委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域等への説明は、ホームページを見てもらい連携を図るとよい。 ・ホームページは学校を知りたい一般の方の窓口となるので、できるだけ学校の取組を紹介していただきたい。そして、保護者にとっても学校や生徒の様子、特に他学年の取組を知ることで学校全体への理解が深まると思うので、不定期発信でもよいから学年の様子を載せてはいかがでしょうか(まずは写真とタイトルだけでも)。 				
教育環境	タブレット端末や他のICT機器は、課題探究的な学習を行う上で効果的に活用されているか。	A	タブレット端末を始めとしたICT機器を効果的かつ継続的に活用できる環境整備に努めるために、さらなる研究・研修を行う。	A	A
学校関係者評価 委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用は、社会の流れになっているので重要な課題と思います。 ・とても良いことだと思います。 				